

広告掲載基準

第一章 広告掲載基準と掲載判断

1. 広告掲載基準について

ダイヤモンド社 広告掲載基準は、ダイヤモンド社が提供するすべての媒体上に掲載される広告に適用されます。広告掲載を申し込む広告主はこの基準を遵守する必要があります。

2. 広告掲載基準と掲載の可否判断の関係について

広告掲載基準に抵触するもの、およびダイヤモンド社が不適切と判断したものは掲載不可とします。掲載の可否や原稿内容について、国内関連法令および日本雑誌広告協会、日本インタラクティブ広告協会が定める広告掲載ガイドラインに従い、各媒体の特性や広告掲載による社会的影響等も勘案して、ダイヤモンド社が独自に判断します。ダイヤモンド社の個別の判断により、この基準を満たしている場合でも掲載をお断りすることがあります。過去に掲載実績があっても現在の業務内容・商品によってはお断りすることがあります。いずれの場合でもダイヤモンド社は掲載拒否の理由を説明する義務を負わないものとします。

3. 掲載の可否判断と広告の責任について

ダイヤモンド社は、この基準に基づいて個別に掲載可否を判断しますが、この判断は広告に関する広告主の責任を軽減するものではありません。広告掲載を申し込む際には、広告に関する責任は広告主自身が負うことを承諾したものとします。また、掲載の可否を判断した理由について回答することはできません。

4. 掲載可否審査に際して

会社名・所在地・事業内容が記載された資料、または会社概要を確認できる URL、直近 3 年間の 財務諸表を提示いただくことがあります。

第二章 ユーザーの利便性のための基準

1. 広告の主体者の明示

広告主の名称・所在地・問合せ先が明らかでなく責任の所在が不明なものは掲載できません。タイアップ広告、記事広告等については広告クレジット表記を必須とします。

2. 媒体名の使用について

ダイヤモンド社の媒体名を広告に表示する際には制限事項があります。事前にダイヤモンド社の確認が必須となります。

第三章 表示に関する一般的注意

1. 虚偽表示の禁止

2. 不当表示の禁止

商品、サービスの内容が、事実と相違して、実際よりも優良であると誤認させたり、他

のものよりも優良であると誤認させたりする優良誤認表示や、実際よりも安いと誤認させたり、他のものよりも安いと誤認させたりする有利誤認表示などの不当表示となる広告の掲載を禁止します。

3. 最上級表示、No.1 表示

「最大」「最高」「最小」「最速」「No.1」「世界初」などの最大級・絶対的表現のあるクリエイティブは、第三者によるデータ出典・調査機関名および調査年が明記されている必要があります。自社調べによる No.1 表示は掲載できません。

4. 公正競争規約の遵守

業界に公正取引協議会がある場合は、公正取引協議会が定める公正競争規約で定められた表示を遵守してください。

5. 景品類の提供等に関する表現

有償媒体の広告内で、購入者限定を謳った景品提供はできません。

6. 体験談を用いた表現

仮名・匿名の体験談は掲載できません。

7. 投機心、射幸心を煽るような表現の禁止

8. 不快感や恐怖心を与える表現

- ・過度な肌の露出があるもの、性的なものは掲載できません。
- ・醜悪、残虐、猟奇的で不快感を与えるおそれのある表現は掲載できません。

9. オンライン上で誤動作や混乱をまねく表現

- ・高速で振動したり、点滅したり、単純なループを繰り返すような画像、映像を用いたものは掲載できません
- ・OS やブラウザの機能と誤認するものは掲載できません。
- ・実際に機能しない検索窓やプルダウンなど誤動作を誘発するおそれのあるものは掲載できません。
- ・操作なしに音声が出るものは掲載できません。
- ・意図しない挙動を誘引するものは掲載できません。
- ・その他、弊社が不適切と判断した表現は掲載できません。

第四章 掲載できない広告

1. 法令、国際条約等に反するもの

2. 社会規範、公序良俗に反するものや、他人の権利を侵害するもの

- ・業界で定めるガイドラインなどに違反するもの
- ・特定の個人・団体の誹謗中傷や名誉を毀損するおそれがあるもの
- ・著作権や商標権等の知的財産権を侵害するおそれがあるもの
- ・プライバシーを侵害するもの、個人情報取得、管理、利用等に十分な配慮がされていないもの
- ・他人を差別するもの、人権を侵害するもの
- ・醜悪、残虐、猟奇的等で不快感を与えるもの
- ・非科学的・迷信に類するもので、読者・ユーザーに不安や不利益を与えるおそれがあるもの

るもの

・虚偽・誇大な表示、その他不当または不適切な表示があり読者・ユーザーが誤認するおそれがあるもの

・投機心を著しくあおる表現のもの

・詐欺的なものまたはいわゆる悪質商法とみなされるもの

・暴力や犯罪の肯定、性に関する露骨な表現など、公序良俗に反するおそれがあるもの

・反社会的勢力によるもの

・広告主の名称・問合せ先が明らかでなく責任の所在が不明なもの

・その他、弊社が媒体の特性・社会情勢等を勘案して不適切であると判断したもの

3. 掲載をお断りする商品、サービス

・性的な商品、サービスの広告

・出会い系サイト、インターネット異性紹介事業の広告

・ギャンブル（公営競技を除く）、カジノ、オンラインカジノの広告、パチンコ・パチスロホール営業の広告

・脱法ハーブ、合法ドラッグ等と称される「危険ドラッグ」の広告

・国内で承認されていない医薬品、医療機器の広告

・美容整形・植毛手術の広告

・銃器、弾薬、刀剣などの刃物、催涙スプレー、スタンガンなど主に武器として使用されるもの

・特定の宗教の教義を紹介、入信をすすめる広告

・無限連鎖講（ねずみ講）や連鎖販売取引（マルチレベルマーケティング、ネットワークビジネス）預託商法へ勧誘、紹介するもの

・その他、弊社が不適切と判断した広告

2023年5月